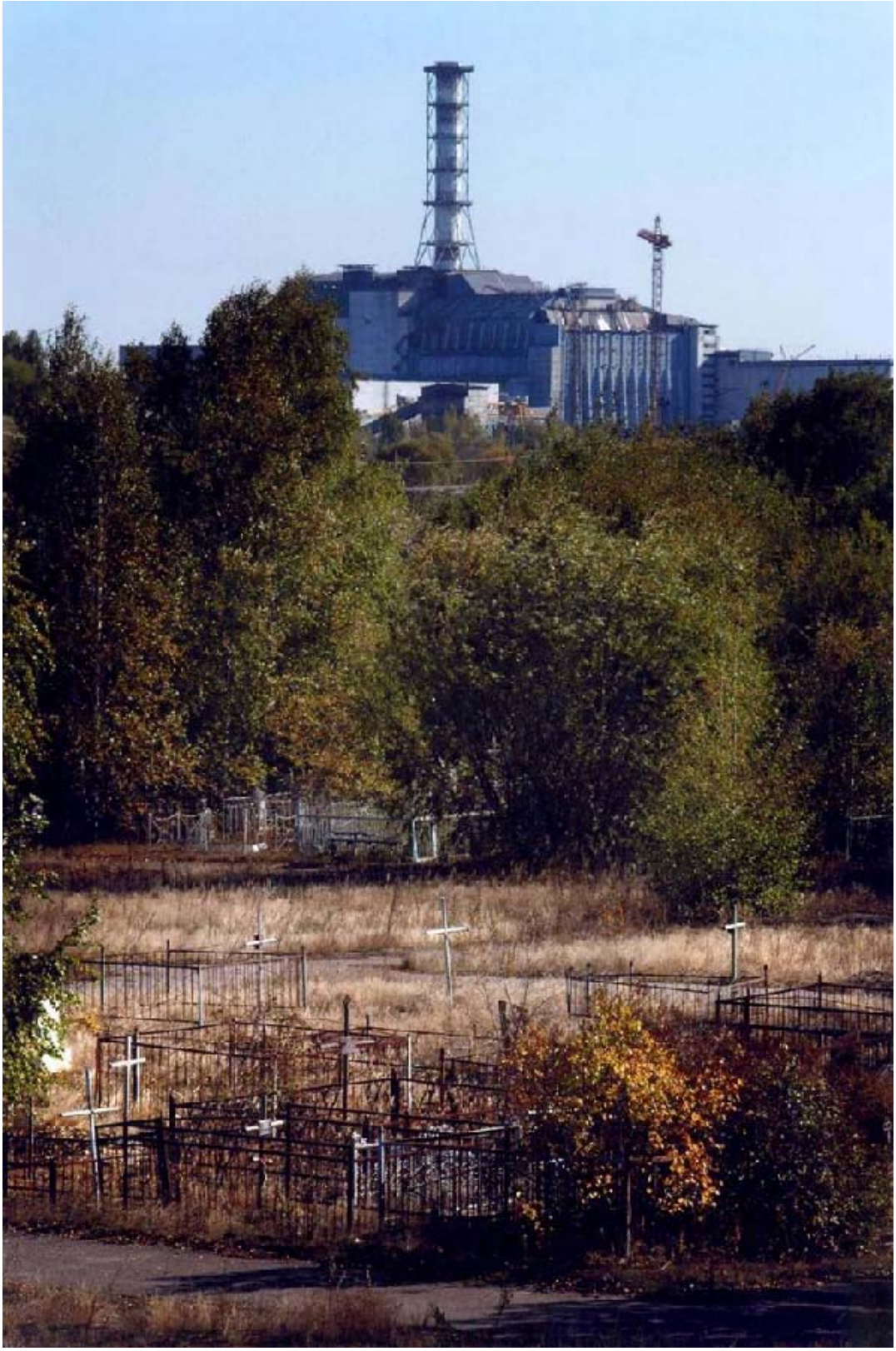
チェルノブイリ報告の20年

広河 隆一



チェルノブイリ原発４号炉は「石棺」と呼ばれるコンクリートの建物ですっぽりと覆われていたが、ひび割れがひどく、不断に放射能が漏れ、内部の構造物も崩壊の危機にある.（２００５年）

原発から１７キロ離れたチェルノブイリ市. 廃墟となった家々の向こうに教会がみえる.

死の町となったプリピャチ市に残る観覧車．オープンの前の日に事故が起こり、使われないまま放置された.（１９９６年）

汚染された家を壊して、地中に埋める作業をするブルドーザー．ベラルーシのオチェソルドニャ村．（１９９９年）

事故の後、住民はプリピャチの町から避難させられた．しかしそれは事故の翌日で、その間に多くの子どもたちは大量の放射線を浴びた．プリピャチの幼稚園には突然の避難を物語るように、遊び道具が散乱していた．（１９９０年）

事故当日、祖母と一緒のプリピャチに来ていた少女、ターニャ．１０年後に甲状腺ガンと判明したときは、すでに肺と脳にも転移しており治療は不可能であった．１９９７年、１４歳で永眠．（１９９６年）

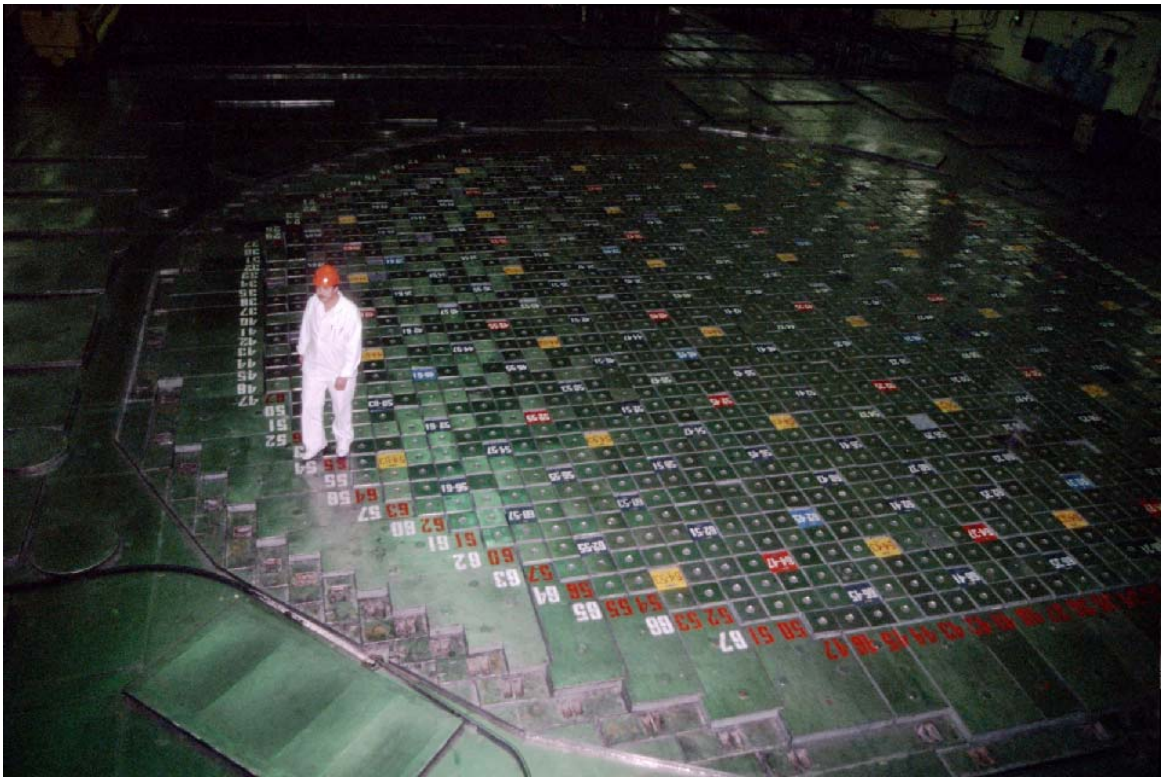
プリピャチ市で事故当時被曝し、キエフ市に避難したナターシャ．２６歳で脳腫瘍により死亡した．若い年齢で死亡する人が増えている．（２００６年）

原発から１０キロ圏内の高濃度汚染地域では、動植物の異常が多く見られる．男性が手に持つキノコは、通常なら１０センチほどの大きさだが、巨大化していた．（１９９５年）

ロシア共和国のブリャンスク地方の封鎖された村にはまだ人が住んでいた．「孫に食べさせてやりたいのだが放射能は大丈夫だろうか」とじゃがいもを差し出した．私の検知器で測ると、針が上昇していった．（１９９０年）

原発職員や消防士たちが３１人埋葬された、モスクワ郊外のミーチンスカヤ墓地.（１９８９年）

ウクライナ、トルストイ・レス村．放射能汚染により村は廃村と化した．廃墟となった文化会館の前に、レーニンの像が残されている.（２００５年）



３号炉の炉心に立つ作業員．この後、３号炉は閉鎖された．（１９９６年）

チェルノブイリ立ち入り禁止地区で、メディアや外国の科学者たちを案内していたリマ．いつも彼女が私のガイドを務めていた．２００６年３月、脳腫瘍で死亡した．（２００１年）

チェルノブイリ原発から６０km 北の汚染地帯で出産した若い母親．食べ物が汚染されており、母乳には、セシウムやストロンチウムなどの放射性物質が含まれている．（１９９３年）